


海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	松永 理絵	
所属機関	福島県立医科大学低侵襲腫瘍制御学講座	
研究に従事した外国の研究機関名	European Society of Coloproctology Berlin meeting 2017 邦名：ヨーロッパ大腸肛門病学会	
参加した国際学会・会議名		
渡航期間	自 2017年9月19日 至 2017年9月24日	
研究内容 ・国際学会・会議内容	腹膜偽粘液腫に対する二期的完全減量切除術の試み	
研究成果（要約：800字）	<p>European Society of Coloproctology に参加した。ヨーロッパを中心に世界中の大腸外科医が集まる学会であり、著名な医師の発表や熱い討論は非常に刺激的であった。世界中で進行中の臨床試験、新治療法など、日本では着想し得ないアイデアに触れることができ、世界の広さを痛感する機会となった。</p> <p>今回「腹膜偽粘液腫に対する二期的完全減量切除術の試み」についてポスター発表を行った。侵襲の高い手術である完全減量切除を二期的に行うことにより、よりリスクの高い患者にも安全に行える可能性について述べた。腹膜偽粘液腫は希少疾患であり、日本では注目されにくいのが、今回発表の際には質問もあり有意義な討論をすることができた。今後の方向性について助言を得ることもできた。</p> <p>発表の中で特に印象に残ったのは、ヨーロッパを中心に48か国が参加する大腸癌手術に関するコホートの構築についてであった。その規模の大きさはもちろん、その結果と真摯に向き合う発表内容に感銘を受けた。RCT 一辺倒ではなく、詳細な観察研究を重視する臨床研究の方法論の流れについても改めて意識することになった。</p> <p>今回学んだことを今後の日常診療、研究に活かしていきたいと考える。研究成果については継続的に国際学会で発表していきたい。</p>	